

紙 一 重

普段正しいと信じている防災の心得が間違っている可能性も。いざというときに備えて、正しい知識を学びましょう。

防災

消火器はすぐ使える場所に置いてあります。いざ火事になりかけても心配ありませんよね？

消火器にも得手不得手がある。消火器は「住宅用」と「業務用」に分けられます。住宅用は主に家庭内に設置されるもので「普通火災」、「電気火災」、「天ぷら油火災」、「ストーブ火災」などの火災に対応。高齢者や女性でも操作しやすいコンパクトなタイプが多く、本体容器色の規制もあります。一方、業務用はマンションの廊下など共用部分に設置

される消火器で、住宅用に比べて持続時間や使用範囲に優れています。容器色は25%以上を赤色とするように定められています。

で、購入時は「油火災マーク」を確認してください。

油火災マークの有無を要確認。建物火災の原因は揚げ物などの油火災の割合が大多数。消火には消火器を用いるのがベストですが、稀に天ぷら油火災には使えない種類もあるの

ので、購入時は「油火災マーク」を確認してください。

一般的に業務用消火器は5年で消火剤の詰替えが必要で、10年以内に本体の交換を行います。住宅用消火器は詰替えができない構造で、3〜5年で交換する必要があります。普段から消火器の使用期限を確認しておきましょう。

防災

今の時代、スマホさえ持っておけば災害時の情報収集は心配いりませんか!?

充電切れや停電に注意が必要。災害時にスマホを活用すれば、インターネットで被害や支援の情報を収集できるほか、LINEや災害伝言板などで家族の安否確認もおこなえます。音声通話やキャリアメールとは異なり、インターネットはアクセス集中にも強いので非常時向き。ただし停電で基地局がダウンすることもあるため、過信は禁物です。また、

スマホの弱点はバッテリー切れ。充電器の用意が必須ですが、備蓄や屋外での入手が容易な乾電池式がおすすです。

してみましょう。



情報の真偽をチェックする

災害情報ならアプリが、避難所などの情報なら、市町村のウェブサイトが便利。SNSを利用するのもひとつの手段ですが、誤報や虚偽情報が流れるリスクもあります。自分で市町村や気象庁の情報を検索して、真偽を確認することが大切です。

災害伝言ダイヤルを活用

スマホは使用できないが、公衆電話などは利用できる——そんなときは災害伝言ダイヤル「171」を。体験利用提供日（毎月1日、15日など）に、家族でメッセージを録音



【監修】高荷智也／備え・防災アドバイザー、ソナエルワークス代表